

行政評価(施策評価シート)

1 基本項目

基本目標4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち
基本施策1	未来につなぐ環境都市の実現
施策23	自然環境
基本方針	水や緑あふれる貴重な自然を保全し、美しい羽村の自然環境を将来の世代に継承していきます。

2 指標(長期総合計画目標指標)

指標名		現状	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	目標値 (平成28年度)
指標1	緑地管理ボランティア団体への登録者数	49人 (平成22年度)	89人	119人	119人	123人	130人	100人
指標2	緑の環境教室への参加者数	21人 (平成22年度)	209人	39人	19人	0人	17人	50人

3 施策を構成する平成28年度事務事業の実施・評価結果

No	事業名	平成28年度実施結果			評価(所管課長)				指標に係る重点事務事業
		決算/円	予算執行率	進捗状況	妥当性(必要性)	効率性(手法)	有効性(成果)	方向性	
1	環境とみどりの基本計画の推進	127,564	66.1%	計画どおり完了	○	○	○	A	*
2	緑地保全活動の支援	29,780	99.3%	計画どおり完了	○	○	○	A	*
3	緑の創出推進事業の実施	232,000	38.7%	計画どおり完了	○	○	○	A	
4	緑の環境教育の実施	10,809	90.1%	計画どおり完了	○	○	△	B	*

4 施策評価

① 施策の評価

市民ボランティアと協働した樹林地等の緑地保全活動、みどりの創出推進事業や緑の重要性に対する市民意識の高揚を図るための緑の環境教室の実施などを通じて、緑の保全・創出を進めてきた。
その結果、緑地管理ボランティア団体への登録者数は、130人と目標値を超えている。
また、多摩川の水質調査や水生生物調査などの監視活動に取り組み、水環境の保全と生物多様性の確保に取り組んだ。
緑の環境教室は、開催時期の変更など内容の見直しを図ったことで9歳から75歳までと幅広い年齢層の方の参加が得られたが、引き続き、参加者増に取り組んでいく必要がある。

② 今後の方向性(改善への取り組み等)

今後も、既存の緑の保全および屋上や駐車場などへの新たな緑の創出を図るとともに、多摩川の水質調査や水生生物調査等の監視活動や、自然環境に関する学習の充実に取り組み、貴重な自然環境を次世代に継承していく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	産業環境部		環境保全課		
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理	
1	環境とみどりの基本計画の推進	平成 26 年	期間設定10年	自治事務(市独自)	直営		
	01	年					
	02	年					
	03	年					
	04	年					
	05	年					
関連課							
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	23	自然環境	事業番号	4

2.事業の概要

事業内容	環境とみどりの基本計画に基づき、諸施策を計画的に推進します。
根拠法令	環境基本法、生物多様性基本法、都市緑地法、地球温暖化対策の推進に関する法律
条例	羽村市環境基本条例
要綱等	環境とみどりの基本計画～環境・みどり・生物多様性を包括的に進めるはむらプラン～

3.成果指標

成果目標	人と自然との共生をめざし、川や緑を守り育て、水や空気や土を汚さず、健康で安全に暮らし続けられるまち
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	環境とみどりの基本計画の推進 環境審議会 3回	同左 環境審議会 2回 審議会委員改選	同左 環境審議会 2回	同左 環境審議会 4回 審議会委員改選 環境とみどりの基本計画(後期)の検討及び改訂

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	184 H	1人	214 H	1人	122 H	1人	478 H
主事・主任職	3人	104 H	3人	134 H	3人	70 H	3人	191 H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	246	193	166	355
人件費(係長職)	928	1,065	607	2,379
人件費(主任・主事職)	1,123	1,367	714	1,948
総事業費(合計)	2,297	2,625	1,487	4,682
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	2,297	2,625	1,487	4,682
財源内訳(合計)	2,297	2,625	1,487	4,682

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

環境とみどりの基本計画を推進する上でPDCAに必要な、環境報告書、市域のエネルギー・二酸化炭素排出量などの資料を作成のうえ、環境審議会を2回開催し、点検・評価を行った。
 審議会委員の改選において委員数が減少したため事業費の執行率は66.1%となった。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	193,000	0	193,000	127,564	66.1%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
緑の保全や都市空間の緑の創出を図るため、地球温暖化対策地域推進計画を改訂するとともに、環境報告書を環境とみどりの基本計画の項目及び管理指標に沿って全面改訂し、各計画の点検・評価を行った。	環境とみどりの基本計画を推進する上でPDCAに必要な、環境報告書、市域のエネルギー・二酸化炭素排出量などの資料を作成のうえ、環境審議会を2回開催し、点検・評価を行った。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの
 ○・・・適切なもの
 △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	高 [妥当性・有効性]	今後の方向性				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">B:事業の進め方の改善の検討</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">← C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> <td style="text-align: center;">→ D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	← C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討	→ D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	高 [効率性]	A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当					
← C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討	→ D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討					
	低					

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
第五次長期総合計画の指標でもある市域の緑被率は、前回調査の平成18年度より10力年が経過し、固定資産税台帳ベースでは山林等は大きく減少し、緑被率の大幅減が懸念されることから、市域の緑化対策について一層推進するとともに、真摯に検討しなくてはならない。第五次長期総合計画の後期の運用の中で、緑被率の調査等による、市域のみどりの量の把握に努めるほか、各計画に沿ったPDCAサイクルによる進行管理を実施し、より一層の環境とみどりの基本計画の推進を図る。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	産業環境部		環境保全課		
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理	
2	緑地保全活動の支援	不明	年 その他	自治事務(市独自)	施行者への補助・助成		
	01		年				
	02		年				
	03		年				
	04		年				
	05		年				
関連課	土木課						
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	23	自然環境	事業番号	5

2.事業の概要

事業内容	市民ボランティアによる樹林地等の緑地保全活動を支援します。				
根拠法令	都市緑地法				
条例	羽村市環境基本条例				
要綱等	環境とみどりの基本計画				

3.成果指標

成果目標	地域と連携した活動機会を充実し、多摩川周辺の自然や田園風景、崖線のみどりなどの自然環境の保全と再生に努めることによって美しい自然景観を守り、うるおいのあるまちに資する。
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	ボランティア組織による樹林地保全活動の支援 ボランティア数119人	同左 ボランティア数119人	同左 ボランティア数119人	同左 ボランティア数119人

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	96 H	1人	96 H	1人	96 H	1人	96 H
主事・主任職	1人	96 H	1人	96 H	1人	96 H	1人	96 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	30	30	30	30
人件費(係長職)	484	478	478	478
人件費(主任・主事職)	346	327	327	327
総事業費(合計)	860	835	835	835
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	860	835	835	835
財源内訳(合計)	860	835	835	835

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

美原崖線、羽村崖線(稲荷緑地)の緑の保全を図るため、維持保全を担うボランティア組織への活動の支援を行った。

ボランティア数合計人数130人
 (活動回数合計29回、参加延べ人数合計306人)

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	30,000	0	30,000	29,780	99.3%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
ボランティア数合計人数123人 (活動回数合計32回、参加延べ人数合計387人) 市民等との協働により、樹林地の保全を図るため、ボランティアによる樹林地等の緑地保全活動を支援した。	ボランティア数合計人数130人 (活動回数合計29回、参加延べ人数合計306人) 市民等との協働により、樹林地の保全を図るため、ボランティアによる樹林地等の緑地保全活動を支援した。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
ボランティア数	119人	130人

Check(評価)

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの
 ○・・・適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性 A
低	B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	↑		
		A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当		

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長) ボランティア団体との連携を強化するとともに、活動場所、活動範囲等について、ボランティア団体と検討していく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	産業環境部			環境保全課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
3 緑の創出推進事業の実施		平成 26 年	期間設定10年	自治事務(市独自)	施行者への補助・助成	
	01		年			
	02		年			
	03		年			
	04		年			
	05		年			
関連課	産業課・土木課					
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	23	自然環境	事業番号 7

2.事業の概要

事業内容	都市空間に新たなみどりを創出するため、生け垣、庭木、建物の屋上や壁面への新たな緑化事業に対し、費用の一部を助成します。
根拠法令	都市緑地法
条例	羽村市環境基本条例
要綱等	環境とみどりの基本計画～環境・みどり・生物多様性を包括的に進めるはむらプラン～

3.成果指標

成果目標	多様な生物が共生する生態系を守るとともに、新たなみどりを育み、人と自然と生物が調和しながらめぐる、うるおいあるまちに資する。
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	生け垣・庭木緑化・屋上緑化、壁面緑化等助成 4件	同左 4件	同左 6件	同左 6件
	市内のグリーンカーテンの推進(種の無償配布)	同左	同左	同左
	グリーンカーテンコンテストの実施 1回	同左 1回	同左 1回	同左 1回
	東京都苗木供給を活用した植樹 公共施設や道路の植樹帯への植樹 1,010本 市民への苗木の無料配布 200本	同左 公共施設や道路の植樹帯への植樹 1,010本 市民への苗木の無料配布 200本	同左 公共施設や道路の植樹帯への植樹 1,010本 市民への苗木の無料配布 200本	同左 公共施設や道路の植樹帯への植樹 1,010本 市民への苗木の無料配布 200本

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	24 H	1人	24 H	1人	24 H	1人	24 H
主事・主任職	1人	120 H	1人	120 H	1人	120 H	1人	120 H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	600	600	800	800
人件費(係長職)	121	120	120	120
人件費(主任・主事職)	432	408	408	408
総事業費(合計)	1,153	1,128	1,328	1,328
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	600	600	800	800
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	553	528	528	528
財源内訳(合計)	1,153	1,128	1,328	1,328

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

当初、助成件数4件、助成金額600千円を予定していたが、助成件数2件、232千円の助成の実績により、75.25㎡のみどりが増加した。

オール東京62市区町村共同事業としてゴーヤ等の種を2,500袋無償配布した。

グリーンカーテンコンテストを実施し、8点の応募があり、審査会により最優秀賞、優秀賞および優良賞を決定した。

東京都苗木供給を活用し、公共施設や道路の植樹帯へ 457本、市民への苗木の無料配布 200本を実施した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	600,000	0	600,000	232,000	38.7%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
助成件数5件、480千円の助成の実施により、205.76㎡のみどりが増加した。 オール東京62市区町村共同事業としてゴーヤ等の種を2,000袋無償配布した。 グリーンカーテンコンテストを実施し、21点の応募があり、審査会により最優秀賞及び優秀賞を決定した。	助成件数2件、232千円の助成の実施により、75.25㎡のみどりが増加した。 オール東京62市区町村共同事業としてゴーヤ等の種を2,500袋無償配布した。 グリーンカーテンコンテストを実施し、8点の応募があり、審査会により最優秀賞、優秀賞および優良賞を決定した。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高 [効率性]	
低	低	
←	→	
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	
←	→	
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	
↓	↓	

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
緑の減少を抑制していくため、新たなみどりの創出推進事業助成金制度の運用、グリーンカーテンの普及や種・苗木の配布などにより、市域の緑化推進を図る。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	産業環境部		環境保全課		
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理	
4	緑の環境教育の実施	不明 年	期間設定10年	自治事務(市独自)	直営		
	01	年					
	02	年					
	03	年					
	04	年					
	05	年					
関連課							
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	23	自然環境	事業番号	6

2.事業の概要

事業内容	緑の環境教育を実施し、緑の重要性について市民の理解を深め、意識の高揚を図ります。
根拠法令	環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律
条例	羽村市環境基本条例
要綱等	環境とみどりの基本計画～環境・みどり・生物多様性を包括的に進めるはむらプラン～

3.成果指標

成果目標	人と自然と生物が調和しながらめぐる、うるおいのまちに資する。
------	--------------------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	みどりの環境教室 天候不順により未開催	同左 参加者数 35人	同左 参加者数 35人	同左 参加者数 35人

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	12 H	1人	20 H	1人	20 H	1人	20 H
主事・主任職	1人	40 H	1人	56 H	1人	64 H	1人	64 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	4	4	34	34
人件費(係長職)	61	100	100	100
人件費(主任・主事職)	144	191	218	218
総事業費(合計)	209	295	352	352
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	209	295	352	352
財源内訳(合計)	209	295	352	352

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

行政バスを利用し、北杜市内の施設で環境学習を実施した。参加者17人(大人10人、小人7人)。
 ・北杜サイト発電所(太陽光発電について北杜市職員による説明と見学)
 ・オオムラサキセンター(サナギ状態の蝶の観察、施設内散策路を活用した自然観察会)
 春休み期間中の企画を立案したところ、20人の応募予定に対し17人(85%)の参加を得ることができた。
 目標値35人は、行政バスの乗車定員の点で達成できなかったが、9歳から75歳までの幅広い年齢層の参加があり、生涯学習の観点でも成果が得られた。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	4,000	8,000	12,000	10,809	90.1%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
市内の環境保全活動団体を講師として調整したが、実施日は、前日より降り続く雨天であったことから、参加者の安全面を最大限優先・配慮して中止した。	姉妹都市である北杜市内の施設にて環境学習を春休み期間に設定して実施した。行政バスの定員数から17人の参加であったが、内訳は9歳から75歳までと幅広く、生涯学習の観点からも成果が得られた。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
参加者数	35人	⇒ 17人

Check【評価】

8.評価

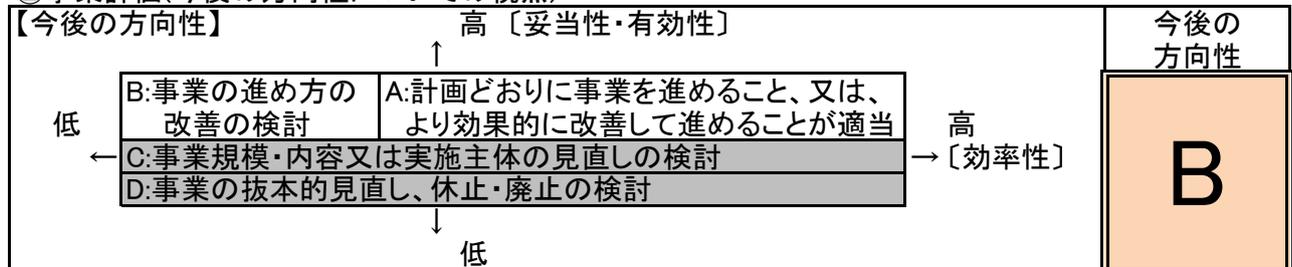
◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	△

②事業評価(今後の方向性についての視点)



Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
平成28年度の試みとして、春休み期間中の企画を立案したところ 9歳から75歳までの幅広い年齢層の参加があり、生涯学習の観点でも成果が得られた。今後も開催時期などを工夫して幅広い年齢層からの参加を図る。